

県南養殖漁場底質環境調査

吉田和貴・朝田健斗・廣澤晃

魚類養殖に伴う残餌や糞等の排出物（有機物負荷）は水中で分解し、一部は海水交換によって漁場外に流出するが、一部は沈降し、海底に堆積する。本調査は、魚類養殖漁場の底質を調べることによって、有機物負荷の程度を把握し、魚類養殖の効率的な経営に資することを目的とする。

方法

県南4ヶ所（図1-1～4）の湾内養殖漁場において、9月下旬にエクマンバージ採泥器で採泥し、外観を観察した後、試泥を水産研究課に持ち帰り、表層泥のCOD、全硫化物、及び強熱減量を分析した（表1）。

結果及び考察

全硫化物については、各調査点とも平年より低めであった。

CODについては、橘湾及び椿泊湾においては平年より低め、浅川湾、那佐湾においては高めであった。

強熱減量については、橘湾及び椿泊湾においては概ね平年どおり、浅川湾、那佐湾においては高めであった。

椿泊湾においてCODが水産用水基準(20mg/g)をやや超過しているが、その他の項目は基準以下であり、漁場環境は概ね良好である。

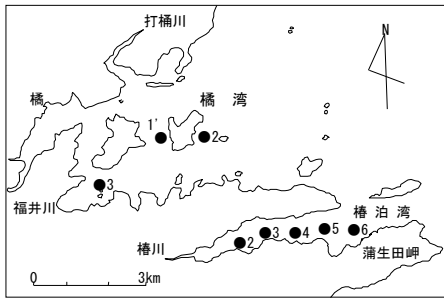


図1-1 橘・椿泊湾調査点



図1-2 浅川湾調査点

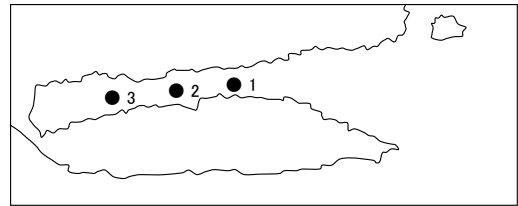


図1-3 那佐湾調査点



図1-4 水床湾調査点

表1. 県南養殖漁場底質環境調査結果

調査地点	年月日	地点	調査時刻	水深(m)	泥温(°C)	乾泥率(%)	全硫化物(Smg/g乾泥)	COD(O2mg/g乾泥)	強熱減量(550°C・%)	外観	浮泥層厚(mm)	底質の性状色		臭気	粘性
												浮泥	浮泥以外		
橘湾	令和元年10月24日	1'	8:43	11.0	22.9	66.3	0.01	7.72	8.0	泥砂	3	淡褐	灰	不明	中
		2	8:47	16.7	22.9	29.7	0.00	16.10	3.4	泥砂	3	淡褐	灰	不明	中
		3	9:06	15.0	22.9	28.3	0.03	18.52	3.2	泥砂	3	淡褐	灰	不明	中
椿泊湾	令和元年10月24日	2	9:40	10.4	22.6	42.6	0.06	16.48	5.7	泥砂	3	淡褐	灰	不明	中
		3	9:50	16.0	22.5	38.3	0.06	13.95	4.7	泥砂	3	淡褐	灰	不明	中
		4	10:00	20.0	23.1	30.1	0.06	20.41	3.6	泥	3	淡褐	灰	不明	中
		5	10:08	22.0	23.0	32.2	0.08	15.18	17.3	泥	5	淡褐	灰	不明	中
		6	10:18	23.9	22.9	33.5	0.01	15.13	4.0	泥	3	淡茶	灰	不明	中
浅川湾	令和元年10月16日	1	9:40	7.1	24.0	67.5	0.00	3.02	10.3	砂泥	3	淡褐	灰	不明	中
		1'	9:50	6.2	24.3	66.1	0.06	3.93	9.7	砂泥	0	淡褐	灰	不明	中
		2	10:05	9.0	24.0	44.9	0.00	17.20	9.1	砂泥	1	淡褐	灰	不明	中
		3	10:10	8.3	24.4	70.3	0.04	8.48	11.3	砂泥	3	淡褐	灰	不明	中
那佐湾	令和元年10月16日	1	10:45	7.3	23.4	43.6	0.03	11.55	7.1	砂泥	7	淡褐	灰	不明	中
		2	10:55	4.7	23.1	69.0	0.01	3.01	8.3	砂泥	8	淡褐	灰	不明	中
		3	11:05	2.9	22.0	48.0	0.02	9.53	6.3	泥砂	20	淡褐	灰	硫化臭	中
水床湾	令和元年10月16日	1	11:04	6.7	-	-	-	-	-	砂	0	-	灰	不明	-
		2	11:50	3.6	-	-	-	-	-	砂	0	-	灰	不明	-
		2'	12:00	4.5	-	-	-	-	-	-	砂礫	0	-	灰	不明